

「新指定・新登録」答申物件

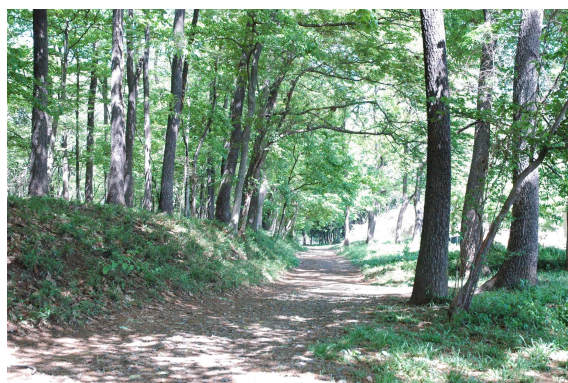
《史跡名勝天然記念物の新指定》

【史跡】 9件

1 鎌倉街道上道【埼玉県入間郡毛呂山町】

鎌倉街道のうち鎌倉から武蔵国・上野国を経て信濃国・越後国へ向かう道を上道と呼んだ。道路遺構だけではなく、宿場と墓域、その境界という一体的な空間が良好に残されており、中世の街道の状況を明らかにする重要な遺跡である。

（鎌倉から武蔵国・上野国を経て信濃国・越後国へ向かう道。中世の街道の状況を明らかにする重要な遺跡）



提供：毛呂山町

2 夕田墳墓群【岐阜県加茂郡富加町】

突出部付の墳丘墓の蓮野1号墳、前方後円墳の夕田茶臼山古墳からなる。弥生時代後期後葉以降、前方後方形の墳丘墓が展開する東海地域において、いち早く前方後円形の墳墓を採用するなど、前方後円墳の東日本への広がりを考える上で重要である。

（弥生時代終末期から古墳時代初頭にかけて築造された突出部付の墳丘墓及び前方後円墳）



提供：富加町

3 芥川城跡【大阪府高槻市】

畿内周辺を支配し政権を担った戦国大名・三好長慶の本拠で、政庁機能を持った山城跡。標高182mの三好山に築かれ、東西約500m、南北約400mで3つの曲輪群からなる摂津国最大規模の城跡。織田政権直前の戦国時代の政治・軍事を知る上で貴重である。

（畿内周辺を支配し政権を担った戦国大名・三好長慶の本拠である摂津国最大規模の山城跡）



提供：高槻市

4 郡山城跡【奈良県大和郡山市】

奈良盆地の西ノ京丘陵南端に位置する近世城郭。天正13年（1585）に豊臣秀長が入城し畿内統治の拠点として大規模に整備が行われ、関ヶ原の戦い以後は譜代大名が城主となった。天守台のある本丸を中心に、毘沙門曲輪などの曲輪群、内堀、鷺堀などからなる。曲輪の周囲は石垣で築かれ、転用石材が多く用いられている。

（奈良盆地の西ノ京丘陵南端に位置する近世城郭。豊臣政権の畿内統治の拠点となった）



提供：大和郡山市

5 新宮下本町遺跡【和歌山県新宮市】

中世以降、太平洋航路の重要な拠点であった港町の遺跡。海を介した交流の実態を知る上で重要なだけでなく、中世の海上交通と宗教勢力との関係や、平安時代末頃以降から全国へ信仰が拡大する熊野三山の経済基盤等について考える上でも重要である。

（熊野川に面した熊野三山との関係が指摘される中世の港湾関係遺跡）



提供：新宮市

6 熊本藩高瀬米蔵跡【熊本県玉名市】

江戸時代、菊池川流域の村々から年貢米を舟運で集積した熊本藩の米蔵。船着場跡には、蔵との間をつなぐ石敷きの坂道「俵転がし」2基や石階段、護岸石垣等が現存する。河口部に立地し補完機能を担った船着場跡も合わせて指定する。

（江戸時代、菊池川流域の村々の年貢米を舟運で集積した熊本藩の米蔵跡と船着場跡）



提供：玉名市

7 ^{とどろきかいづか} 轟 貝塚【^{う と し} 熊本県宇土市】

^{ありあけかい} 有明海沿岸部に位置する縄文時代早期末から後期中葉にかけての貝塚を伴う集落。九州や西日本の縄文時代早期末から前期の指標となる ^{とどろきしき ど き} 轟 式土器が出土する ^{ひょうしき} 標式遺跡であり、中心部に形成された同時期の貝層の内外からは ^{まいそうじんこつ} 埋葬人骨が多数検出されている。当時の ^{せいぎょう} 生業や ^{こかんきょう} 古環境、^{ぼせい} 墓制を知る上で重要である。



提供：宇土市

（有明海沿岸部に位置する縄文時代早期末から後期中葉にかけての貝塚を伴う集落）

8 ^{さとかがんがいせき} 里官衙遺跡【^{おおいたし} 大分県大分市】

大分市東部に位置する飛鳥時代から奈良時代にかけての ^{かんがいせき ひょう} 官衙遺跡。評の役所と考えられる ^{おのがたほったてばしらたてもものぐん} コの字状に配置される大型掘立柱建物群が検出されるなど、^{あまべ} 海部地域の古代官衙の変遷を具体的に示す遺跡として重要である。



提供：大分市

9 ^{たちきりいせき} 立切遺跡・^{よこみねいせき} 横峯遺跡【^{くまげぐんなかたねちよう} 鹿児島県熊毛郡中種子町・^{みなみたねちよう} 南種子町】

立切遺跡と横峯遺跡は種子島中・南部に位置し、3万5千年前の種Ⅳ火山灰層の下位から、後期旧石器時代前半期に位置付けられる落とし穴遺構や ^{れきぐん} 礫群が検出された。日本列島南部に位置し、^{しょうようじゅりんかんきょう} 照葉樹林環境に適応した居住や生業を具体的に示す遺跡として重要である。

（種子島に所在する落とし穴や礫群などをもつ後期旧石器時代前半期の遺跡）



提供：鹿児島県

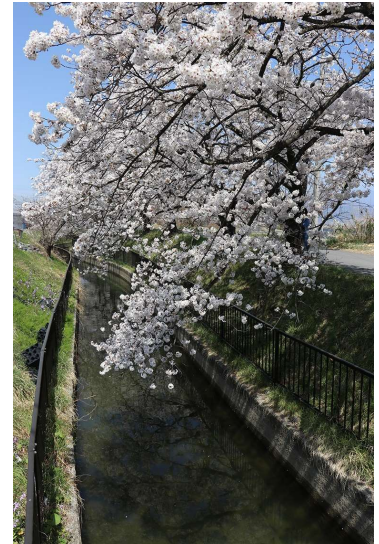
《登録記念物の新登録》

【遺跡関係】 1件

1 徳島堰【山梨県韭崎市・南アルプス市】

釜無川右岸に水を供給するために作られた灌漑用水路。寛文5年（1665）に江戸の商人徳島兵左衛門俊正が工事に着手したものの水害により工事を断念し、その後、甲府藩が寛文10年（1670）に完成させた。用水路はいくつもの沢や川を横断したもので、延長は約17kmである。

（寛文5年（1665）に江戸の商人徳島兵左衛門俊正が工事に着手し、その後甲府藩が完成させた用水路）



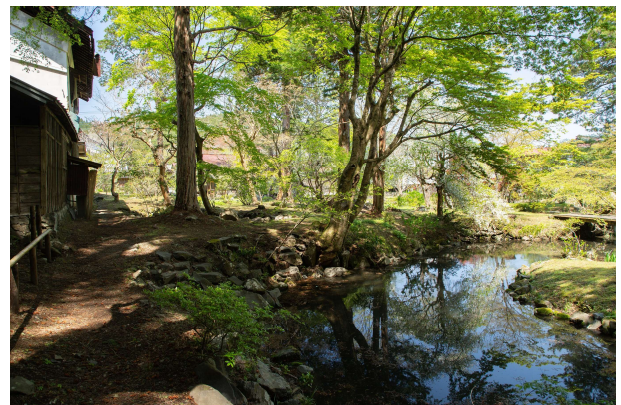
提供：南アルプス市

【名勝地関係】 2件

1 岡山氏庭園（養浩園）【茨城県常陸大宮市】

明治中期に、当時酒造業を営んでいた岡山氏が造営した池泉庭園。庭門の手前に3階建ての楼閣「喜雨亭」が建ち、門を潜ると前方に中島のある園池が広がる。園池の向うには緒川が流れ、その背後に切り立った岩山がそびえる。

（明治中期に、当時酒造業を営んでいた岡山氏が造営した池泉庭園）

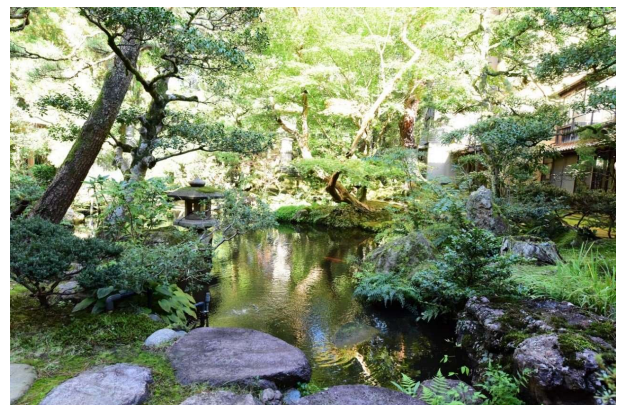


提供：常陸大宮市

2 法師庭園【石川県小松市】

粟津温泉の名湯「法師」に造営された近代の庭園で、宿泊棟に囲まれた中に延命閣を挟んで南北の地割に複数の築山や池泉を設け、高木の樹叢の下に客室からの観賞や散策を楽しませる構成に擬木護岸や大型石造物などを備えていて、時代を特徴づける造形を伝える事例である。

（粟津温泉の名湯「法師」に造営された複数の築山や池泉から成る近代の庭園）



提供：小松市